

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和6年6月18日（火）

### 2 確認箇所

- ・新事務本館（図1）
- ・5・6号機タービン建屋周辺（図1）

### 3 確認項目

- （1）6号機タービン建屋火災報知器作動後の状況
- （2）作業点検の実施状況

### 4 確認結果の概要

- （1）6号機タービン建屋火災報知器作動後の状況

本日、東京電力から下記の通報があったことから、現場の状況を確認した。なお、火災報知器の作動後、6号機タービン建屋内への立ち入りが制限されていたことから、建屋周辺で確認を行った。発災現場の確認は、後日実施する。

#### 【東京電力からの通報内容（発災直後：9時18分受信）】

本日8時33分頃、6号機M/C6Cの母線トリップが発生し、D/G6A自動起動を確認いたしました。

現在、当該電源設備の状況を確認しており、状況についてはわかり次第お知らせいたします。

本日8時35分、6号機タービン建屋地下1階で火災警報が発生しました。

また、使用済燃料プール冷却浄化系ポンプ（B）がトリップしていることを確認いたしました。

詳細につきましては現在調査中です。

モニタリングポスト、敷地境界連続ダストモニタのパラメータに有意な変動はありません。

現在、当該電源設備の状況を確認しており、状況については分かり次第お知らせします。

#### 【現場確認（10時頃）の結果】

- ・5・6号機サービス建屋周辺に公設消防と自衛消防隊の緊急車両が停車していた。（写真1）
- ・公設消防が全面マスク等の装備を着用し、現場に入域していた。（写真2）

- ・自衛消防隊が発災現場周辺の空气中放射性物質濃度を測定するために、ダストサンプラを持って、現場に入域していた。(写真3)
- ・警備担当者が現場に入域する者の氏名、時刻等を記録していた。

【東京電力からの通報内容（現場確認後：13時35分受信）】

11時33分、公設消防により発煙が停止していることが確認されました。  
なお、当社による現場調査結果を踏まえ、後日、公設消防により火災に係る判断をしていただきます。

【東京電力からの通報内容（19時5分受信）】

6号機使用済燃料プール冷却浄化系ポンプ（B）について、18時19分、当該ポンプを起動し、6号機使用済燃料プールの冷却を再開しました。  
なお、6号機使用済燃料プールの水位、温度について異常のないことを確認しています。

(2) 作業点検の実施状況

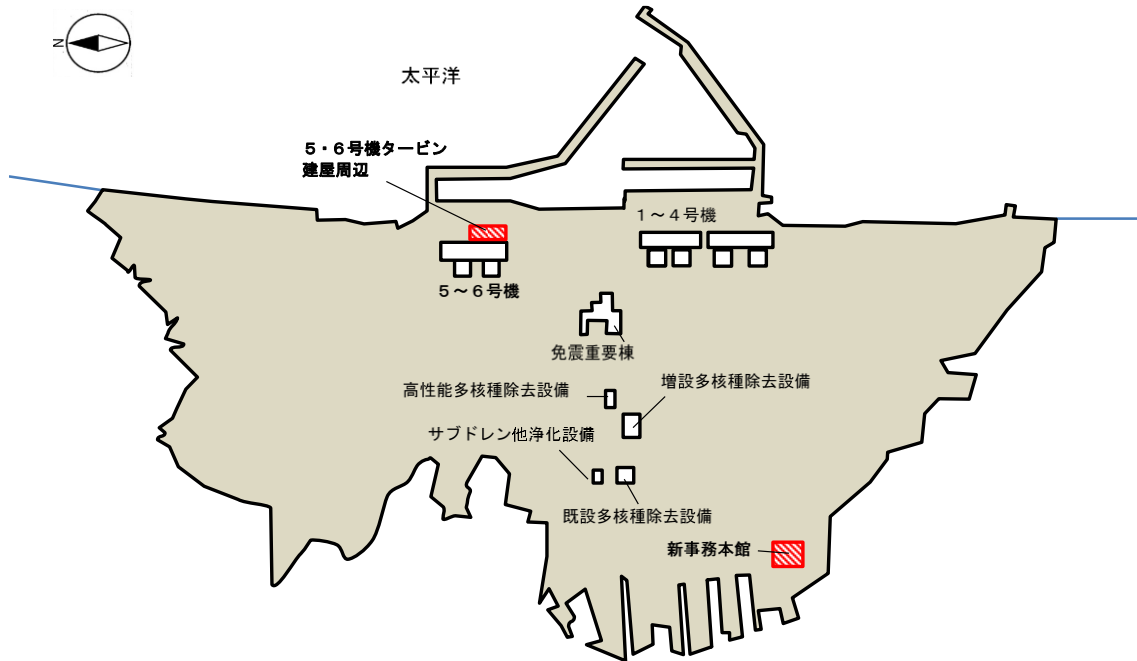
東京電力は、廃炉作業において様々なトラブル<sup>\*1</sup>が続いていることを受け、5月から発電所における全ての作業に対して、作業リスクを評価するための作業点検を実施している。(前回確認：[令和6年5月31日](#))

本日は、H I Cスラリー移替え作業<sup>\*2</sup>の作業手順の見直し状況について、東京電力の担当者から机上で説明を受けた。聴取した主な内容は以下のとおり。

- ・従来はバルブの操作の確認を2名（操作者＋工事担当者）で行うとしていたが、さらなるリスク低減を目的に作業責任者による最終確認を追加した（計3名による確認）。
- ・作業点検を実施するためにH I Cスラリー移替え作業が数ヶ月間停止していたが、作業が再開され、今年度の目標移替え基数（23基）は達成できる見込みである。

※1 トラブル：「増設ALPS配管洗浄作業における身体汚染(令和5年10月)」、「高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏えい(令和6年2月)」、「増設雑固体焼却設備廃棄物貯留ピット水蒸気等の発生による火災警報発生(令和6年2月)」、「所内電源A系の停止(令和6年4月)」など。

※2 H I Cスラリー移替え作業：多核種除去設備及び増設多核種除去設備での処理に伴い発生したスラリーは、高性能容器（H I C）に収容し保管しているが、スラリーによるβ線照射影響を受けたH I Cのうち、積算吸収線量5,000kGyを超えると評価されたH I Cについては、万一落下した場合において構造健全性が確認されていないことから、漏えいリスク低減のため、スラリーの移替えを実施している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)  
緊急車両の停車状況



(写真2)  
公設消防の現場出向の状況



(写真3)  
自衛消防隊の現場出向の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。